教員氏名	阿部 弘 (あべ ひろし)
学位	MA (Master of Arts) (修士)
専攻 (専門分野)	Teaching English as a Second Language (英語教育、音声学、小学校英語)
担当科目	英語教科教育法V、教職実践演習、 教育実践研究、 事前及び事後の指導、 教育実習Ⅱ、 Practical Eng. Phonetics I・II
研究テーマ	英語教育における効果的音声指導の研究
所属学会・団体等	全国英語教育学会、九州英語教育学会、日本英語音声学会、日本児童英語教育学会 外国語教育メディア学会

最近の業績 (研究業績) *過去3年 原則的に担当科目に関するもの

・「英語教育フロンティアー充実した実践を目指してー」青木昭六編著、阿部弘他 31 名、保育出版社(2012 年)
内容：英語教育の今日的課題に挑戦するために重要な情報が、実践に軸を置いた理論、思考を促す記述と構成、
わかりやすく、かつ確かな応用力を保証する内容の3つの柱としてまとめられている。

(担当部分)

① 第2章 英語教材の研究 第1節 個別項目研究の視点 A 音声 (pp.23~24)

主な内容：プロソディ (Prosody) の視点から見た音声指導の留意点について3つの視点から論じた。

すなわち、(1) ストレス (アクセント) とリズムの視点、(2) イントネーションの視点、(3) その他の視点、から論じた。

② 第8章 学力の測定と評価 第5章個別項目のテスト A. 発音 (pp.149~150)

主な内容：中学校の検定教科書より事例を引き、意味が理解できて音読を完成させるまでの考慮・推測すべき事項を検討した。そのことから、発音テストは単のペーパー上で入試問題的に扱うのではなく、普段の授業において、生徒に教科書の文脈の意味を十分理解させようとして、立体的な音声指導を通して行うことが望ましい旨論じた。

③ 第10章：英語教育実習 第1節教育実習の意義 (pp.181~182)

主な内容：最初に、教員の資質能力の向上に関連するこれまでの中央教育審議会答申 (1997.7、1998.10、1999.12、2002.2、2005.10、2006.7) を列挙し、文部科学省の今後の教員養成・免許更新制度に関する改革の方向性を示した。次に教育実習の意義として、(1) 教育実習にかかわる新しい流れ、(2) 教育実習の目的と意義、について論じた。

・「英語大好き音読暗唱 BOOK 『Rainbow』 編集・発行：北九州市教育委員会 作成委員：木村康晴、笠原鶴代他 14 名 (うち、協力者として、阿部弘、L. Dennis Woolbright) (2013 年 3 月)

内容：中学生が心を込めて英文を音読したり、反復練習を通して暗唱したりということができるよう、北九州市のことや昔話なども取り扱うことで、生徒に興味をもたせる内容である。本書は副教材であり、2014 年新中学 1 年生に配付されたものである。

協力部分：ことわざや世界の名言などの資料提供、全体の原稿チェックなど

担当部分：主にことわざと名言①、名言② (pp.44~48)

教育業績*過去3年 原則的に担当科目に関するもの

・英語教科教育法V

英語教育に関する豊かな知識と運用能力を身につけているかをみるために、中学校、高等学校の実習にあわせてそれぞれの検定教科書を使用し、模擬授業を展開させる。模擬授業の準備には、情報収集・情報処理の技術や方法を駆使させ、準備をさせる。模擬授業終了後は、その内容を学生が相互に批評しあい、教師が最後にコメントを行うことで仕上げをする。さらに、授業外活動として、学生一人ひとりに対して、実習前に発音個人

矯正指導を実施する。これらの活動を通して、実習生に、自分のもつ能力や知識を学校現場という地域社会の発展に役立てることができることを認識させるための授業を展開する。

実務業績*過去3年 原則的に担当科目に関するもの

- ・九州英語教育学会 協議員・副会長（現在）
- ・日本児童英語教育学会 九州・沖縄支部長（2010年4月～2013年3月）
- ・日本英語音声学会 九州・沖縄・四国支部理事（1996年12月～現在）
- ・本学人文学部 英語学科長(2012年4月～現在)
- ・免許状更新講習の講師
- ・北九州市立板櫃中学校・北九州市立思永中学校における、英語学科教職課程履修者による学習支援のコーディネーター(2014年4月～現在)